

令和3年度学校評価 評価結果と課題

教科	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
中 学 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的な学習の基礎となる言語力を向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容や知っておきたい時事問題等を掲示する。</li> <li>「話す」「書く」等の言語活動を多く取り入れて、授業等を展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の掲示等を見て、内容の振り返りや生徒同士の意見交換をする様子が見られた。</li> <li>「話す」「書く」等の活動を意識的に取り入れるようにした。その結果、全国豊学校作文コンクールや青少年読書感想文愛知県コンクールで入賞する生徒もいた。</li> <li>引き続き言語力の向上を目指し、実態に応じた指導を行う。</li> </ul>
高 等 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容を暗記するだけでなく、対話を取り入れた活動や地域連携を含む実習等の中で思考力を育む授業を展開する。</li> <li>タブレット端末、モニタを含めた情報機器を活用し、ICT教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の学校や企業と連携を図り、対話の中で学習や製作活動を進めた。</li> <li>大型モニタによる教材提示やロイロノートや音声認識機能を活用し、情報や考えを共有できる授業を行った。</li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の視点で、探究学習の充実を図る。</li> </ul>
総 務 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が、安定した学びが実現できる環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と連携して、学習環境の改善を図る。</li> <li>職員がより良い環境の中で生徒への支援ができるように、環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動の取り組みにより、必要な物品の購入、120周年事業及び学科改編に伴うポスターの作成をするなどして、学習環境を整えた。</li> <li>引き続き保護者・教員の要望を集約し、環境整備を図る。</li> </ul>
教 務 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上を図り、主体的に授業参加できるように授業改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の合理的配慮を具体的に書くように促し、ICT機器を活用する場を提案するとともに、生徒の学習状況を適切に評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画が授業改善に結びつく内容になるように促し、教員の意識が向上した。「指導と評価の一体化」をより一層進めていくことが課題である。教育情報部と連携し、オンライン授業を実施することで学習保障をすることができた。さらなる活用の場を増やしていくこ</li> </ul>

			とが課題である。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA スクール構想の実現に向け、生徒用タブレット端末の活用や、大型ディスプレイ等の提示装置の利用促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒用タブレット端末導入に関する具体的なスケジュールを立案・提示する。</li> <li>・ICT活用に向けたマニュアルを整備すると共に、適宜情報提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部と連携し、タブレット端末導入を進め、生徒全員が授業場面で活用できた。</li> <li>・教員向けに各種学習支援サービスの学習会を計25回実施し、全校的にICT活用のスキルが向上した。</li> <li>・今後も年度当に集中的な学習会を実施する。</li> </ul>
生徒指導支援部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、生徒の防災意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の消防署や消防局と連携し、合同防災訓練を実施する。</li> <li>・寄宿舎では、舎生に告知せず、より実際に則した訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市消防局、地域の消防署と合同で体験型の訓練に取り組んだことで、千種消防署より表彰を受けた。また、抜き打ちのシェイクアウト訓練を実施し、教職員と生徒の防災意識の向上に努めた。</li> <li>・実際の災害時を想定した訓練を計画していく必要がある。</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路関係の情報を校内外へ積極的に発信できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学・就職関連資料の充実を図り、生徒・保護者が情報に触れる機会を増やせるようにする。</li> <li>・実習報告会等、進路に関わる活動を動画配信するなど、生徒の活動を企業向けに積極的にアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会の紙面開催に伴い、保護者に具体的な進路関係資料を提示できなかったことが課題である。</li> <li>・実習報告動画のYouTube配信や、企業と連携した授業等を通して生徒の活動をアピールしたことで、新規企業による学校見学や、実習等の生徒の学習に関わる諸活動につなげることができた。</li> </ul>
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食について、多方面からの意見を集約しよりよい献立作りに生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員等が来校する日に合わせて給食を試食できる機会を設ける。</li> <li>・「セレクトデザート」や「リクエスト給食」等で生徒や職員の要望を聞けるようにする。</li> <li>・生徒が授業等で考えた献立を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員の来校に合わせて試食の機会を設け意見を集約する。</li> <li>・「セレクトデザート」と「リクエスト給食」を実施することで生徒の好みを知ることができた。</li> <li>・「名饈 LUNCH 総選挙」では、給食と教科が連携し、生徒の個性が表れる献立ができあがった。</li> </ul>

自立活動研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向けた研究会・研修会を設定し、教職員が相互に学び高め合える体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業参観を計画し、促進する。</li> <li>・教科・学科研究会を設定し、授業検討を行える機会を増やす。</li> <li>・外部講師を招き、授業改善に関する全校研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1回以上の研究授業と授業参観、年間5回の教科・学科研究会、4回の外部講師を招いた全校研修会など、授業改善につながる機会を増やし教員の意識が高まった。</li> <li>・教科・学科研究会の設定時期と回数の検討が課題である。</li> </ul>
---------	--	---	--

《いじめ防止に向けた取組》

生徒指導支援部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見、迅速な対応に努め、組織的に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活アンケートの実施や情報収集を行い、生徒の心情の変化等を把握する。</li> <li>・集約した情報を基に関係する職員と迅速に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の生活アンケートを実施し、生徒の抱える諸問題に対応した。</li> <li>・いじめ問題に関わる全校研修を実施し、日々の指導に役立てる機会とした。</li> <li>・週に1回、生活係や教育相談担当、養護教諭と情報交換会を開催し、指導・支援方針を決定する一助とした。</li> <li>・中学部1年生全員のカウンセリングを行い、実態把握に努めた。</li> <li>・コロナ禍における学校生活の変化に伴い、生徒の心情をより細やかに観察していく必要がある。</li> </ul>
---------	--	--	---

《多忙化解消に向けた取組》

重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の効率化や在校時間の縮小に取り組みながら、教員が自己の健康管理や働き方に対する意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務分掌で業務の精選を行い、マニュアル化を進める。</li> <li>・水曜日を部活動休養日とする。</li> <li>・平常は19:00を施錠時刻とする。定時退校日を毎週水曜日とし、17:30を施錠時刻とする。</li> <li>・施錠時刻と年休取得の統計をとり、働き方の傾向や変化を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施錠時刻の変更により、在校時間も減少し、職員の業務の進め方の意識にも変化が見られた。</li> <li>・校務の再編成を経た、業務の精選を進め、事務書類について、重複する内容の整理や簡略化の実施など、改善を図った。</li> <li>・校務補助員への業務依頼の推進が必要である。</li> </ul>